

令和7年11月定例会 文教厚生委員会（事前）

令和7年11月25日（火）

[委員会の概要 教育委員会関係]

出席委員

委員長 東条 恭子
副委員長 山西 国朗
委員 大塚 明廣
委員 元木 章生
委員 井川 龍二
委員 竹内 義了
委員 浪越 憲一
委員 岡 佑樹
委員 曽根 大志

議会事務局

政策調査課長 戸川 拓司
議事課主任 広田 亮祐
議事課主任 鷹取 加奈

説明者職氏名

[教育委員会]

教育長	中川 斎史
副教育長	松本 光裕
次長（幼小中学校担当）	海老名正規
次長（高校・特別支援学校担当）	眞楫 秀也
教育政策課長	地面 浩
教育政策課コンプライアンス推進室長	田上 裕之
教育DX推進課長	戎 弘人
施設整備課長	大和 研二
教育創生課長	青木 秀夫
教職員課長	井利元裕哉
福利厚生課長	藤本 泰史
義務教育課長	長谷 彰彦
高校教育課長	金岡由岐子
特別支援教育課長	中山 登
人権教育課長	森本 雅仁
いじめ・不登校対策課長	福多 博史
体育健康安全課長	國方 正一
体育健康安全課防災・健康食育推進幹	月本 直樹

生涯学習課長
総合教育センター所長

新開 弓子
板東 潤

【報告事項】

- 徳島県読書バリアフリー推進計画（第二期）素案について
(資料1-1、資料1-2)
- 第2回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について（資料2）
- 第2回徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議の概要について（資料3）

東条恭子委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。（11時44分）

これより教育委員会関係の調査を行います。

教育委員会関係の11月定例会提出予定議案はありませんが、この際、理事者側から報告事項があればこれを受けることにいたします。

中川教育長

教育委員会に関する事項について、3点御報告させていただきます。

1点目は、徳島県読書バリアフリー推進計画（第二期）素案についてでございます。

資料1-1を御覧ください。

本年3月、国において視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画（第二期）が策定されたことを受け、本県の読書バリアフリーの状況に即した推進計画（第二期）を策定するものでございます。

本計画では、視覚障がい、発達障がい、肢体不自由等の障がいにより、読書が困難な方の読書環境を整備、充実させることで、障がいの有無にかかわらず、全ての県民が読書を身近に楽しめる社会の実現を目指し、アクセシブルな書籍等の充実及び製作人材の育成・確保、アクセシブルな書籍等の入手及び利用のための支援、読書を支援する環境の充実と人材の養成の三つを柱とした施策の方向性を示しております。

今後、県議会での御論議やパブリックコメントでの御意見等を踏まえ、策定してまいります。

なお、素案については、資料1-2として添付しております。

2点目は、徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要についてでございます。

資料2を御覧ください。

去る10月17日に開催いたしました第2回会議では、中高生やその保護者を対象としたアンケート結果や、各地域で行ったタウンミーティングのうち前半4会場分の状況などについて事務局から説明を行った後、更なる特色化・魅力化及び学校規模・配置について活発に議論が交わされました。

5の意見交換における主な発言概要でございますが、（1）さらなる特色化・魅力化については、本県産業の競争力にも大きく影響しており、学力向上を最優先課題として位置付けるべき、地域や産業界などと連携し、実践的な体験の機会を作ることで、目的意識を持って学ぶ意欲を育むことが重要ななどの御意見を頂きました。

資料2ページに移りまして、（2）学校規模・配置につきましては、中段及び下段の枠囲みにあります、学校規模や再編に関する基準設定や地域における拠点校の設置の必要性について、委員間で一定の共通認識が図られたところです。

県教育委員会といたしましては、引き続き、関係者の御意見を伺いながら、当会議を中心公立高等学校の在り方について検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、資料3ページからは、会議資料を一部抜粋したものを参考として添付いたしております。

3点目は、第2回徳島県特別支援学校の教育環境に関する検討会議の概要についてでございます。

資料3を御覧ください。

去る10月27日に開催いたしました第2回会議では、第1回会議での各委員からの主な意見を振り返りつつ、委員より頂いておりました質問及び確認事項について、事務局等から説明を行い、情報共有いたしました。

その後、グループに分かれ、次世代の特別支援教育の担い手となる人材の育成と確保をテーマに据え、二つの協議題について意見を交わしました。

5番目の各委員からの主な御意見でございますが、一つ目の協議題、多様化する障がいに対応できる専門性の担保・向上の取組では、校内外の専門性の高い人材とつながる仕組みを作り、成果報告会を開催してはどうか、ICTを活用し、障がいの疑似体験や理解を深める研修を導入してはどうかなどの御意見を頂きました。

資料2ページに移りまして、二つ目の協議題、教員不足解消につながる人材確保策の検討では、小・中・高校生向けのインターンシップやボランティアを推進し、早い段階で特別支援学校や子供たちの実際を知ってもらうことが大切だと思う、教職に対する多忙感のイメージを払拭できるよう教科外の支援業務についてはアウトソーシングを検討してはどうかなどの御意見を頂きました。

県教育委員会といたしましては、引き続き、関係者の御意見を伺いながら、特別支援学校の教育環境について検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、資料3ページからは、会議資料を一部抜粋したものを参考として添付いたしております。

報告は以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願ひいたします。

東条恭子委員長

以上で報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは、質疑をどうぞ。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で教育委員会関係の調査を終わります。

これをもって、文教厚生委員会を閉会いたします。（11時50分）